

# 北海道胆振東部地震の現地調査報告

## 地震対策について本気で考える

(株) M's 構造設計・構造塾  
佐藤実

2018年9月6日午前3時7分ころ、胆振地方中東部（北緯42.7度、東経142.0度）にて地震の規模マグニチュード6.7、震源深さ約37kmの地点で発生しました。そして北海道では初めて震度7が厚真町で観測されており、広い範囲で建物への被害や土砂崩れ、液状化などが見られました。

今回も緊急企画として北海道胆振東部地震の現地調査報告を行います。

### 北海道胆振東部地震

北海道では、地震発生の前日9月4日には、大阪で大きな被害をもたらした台風21号が通過し、台風とそれに伴う大雨が降りました。台風21号の影響で、北海道では電車が止まるなどの被害も出ており、新千歳空港から札幌駅までの鉄道も運休状態でした。翌日の9月5日に、私は北海道でセミナーがあり苫小牧市にいました。幸い、日帰りであったため翌日の大地震に遭遇することはありませんでした。

地震の揺れによる建物被害の多かった地区としてむかわ町末広、美幸と安平町早来大町が挙げられます。まず、むかわ町にて被害建物を確認したところ、鶴川駅前道の道道10号線沿いの商店街（図1）にて倒壊や



図1（国土地理院地図に加筆修正）

大きく傾いた建物があり、応急危険度判定にて危険と判断された赤紙が貼ってある建物が多く見られました（写真1～3）。また、安平町でも同様の傾向が見られ



写真1



写真2

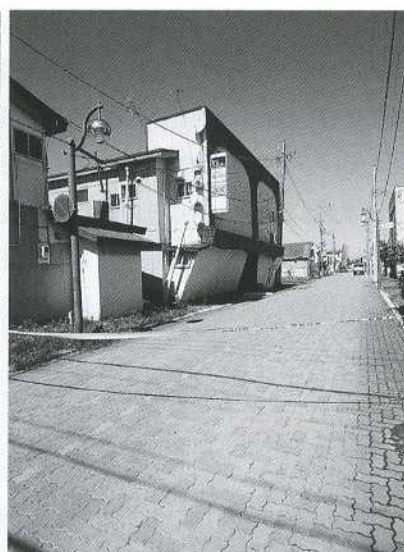


写真3